

水稻生育情報 (No.6)

令和6年7月24日
茨城県 県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

本年の4月から7月第4半旬までの気象は、平均気温が平年より2.0℃高く、降水量は平年比107%、日照時間は平年比106%でした。

7月19日時点の管内の水稻定点ほ場における「コシヒカリ」の生育状況は、草丈は平年よりやや高く、茎数および葉色は平年並となっています。出穂予測日は、移植時期が早い(5月3日まで)ほ場では平年より早く、5月6日頃以降に移植されたほ場では平年よりやや早くなる見込みです。

表1 水稻定点調査結果(7月19日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植日 〔月日〕	植付株数 〔株/坪〕	草丈 〔cm〕	茎数 〔本/m ² 〕	葉色 〔葉色板〕〔SPAD値〕	幼穂長 〔mm〕	出穂予測日 〔月日〕
筑西市	5月6日	50	104	470	3.8 35.5	169	7月27日
一本松	(5月4日)	(52)	(93)	(412)	(3.8) (33.6)	(105)	(7月29日)
桜川市	5月8日	52	98	418	3.7 31.2	112	7月28日
真壁町飯塚	(5月6日)	(51)	(93)	(453)	(3.5) (32.4)	(88)	(7月30日)
下妻市	5月3日	46	102	471	4.2 32.4	-	7月21日
加養	(4月30日)	(47)	(98)	(478)	(3.7) (33.7)	-	(7月26日)

※()内は令和元年~令和5年の5カ年平均値

※出穂日は今後の天候により前後する場合があります。

【これからの栽培管理のポイント】

1 水管理について

間断灌漑で根の活性を維持することで高温登熟による白未熟粒、胴割粒等の発生防止が期待できます。間断灌漑は、数日周期で入水と自然落水を交互に繰り返します(図1)。

また、早期落水は登熟不良、胴割れ粒発生の原因となります。落水は出穂30日間以降に行いましょう。

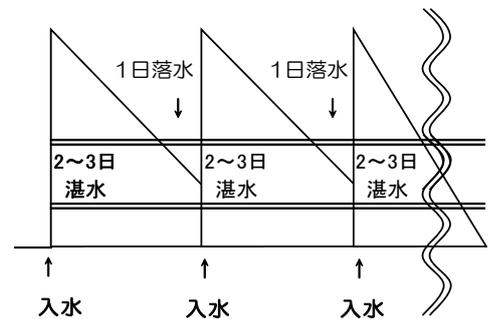


図1 出穂期以降の間断灌漑

2 斑点米カメムシ類防除について

7月上旬現在、県下全域において斑点米カメムシ類の発生量が平年より多くなっています(県病害虫防除部、病害虫発生予察注意報 第2号)。管内でも、7月中旬現在、早生品種や出穂期が早い中生品種作付けほ場において、斑点米カメムシ類が集中的に飛び込んでいます。7月下旬の航空防除を実施しないほ場でも防除を検討してください。

8月中旬以降に出穂期をむかえるほ場でも飛び込みが集中する可能性あるため、注意が必要です。

薬剤による防除適期は、不稔の発生防止であれば出穂期~穂揃期、斑点米発生の防止であれば乳熟期(出穂後10~15日頃)です。

3 適期収穫について

早刈りは千粒重が軽くなり、収量を低下させるとともに、玄米への青未熟粒の混入割合が増えて、落等要因となることがあります。一方で、刈り遅れは胴割粒などの被害粒や茶米・着色粒の発生が増えて、早刈りと同じく落等要因になり得ますので、適期収穫を心がけましょう。

ほ場で直接籾の色(帯緑籾率)を確認して適期収穫に努めて下さい。収穫適期は帯緑籾率が10%になってから5日間です(図2)。

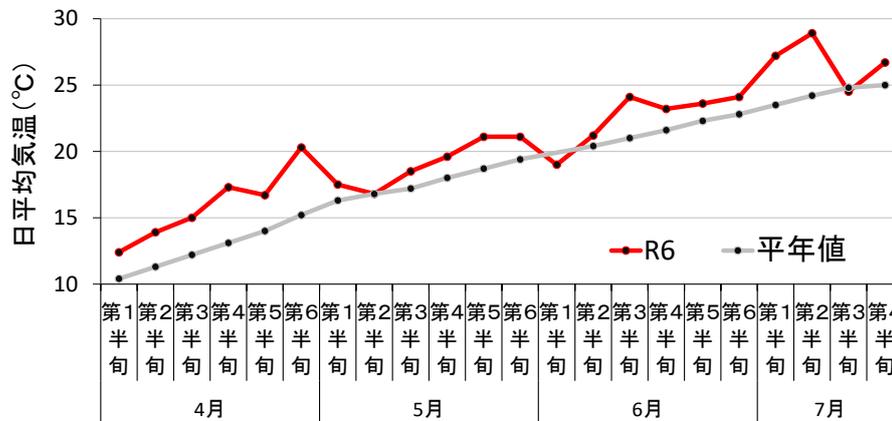


帯緑籾率 (%)	成熟期前日数
55	11
30	8
25	6
20	4
15	2
12	1
10	成熟期(収穫適期)

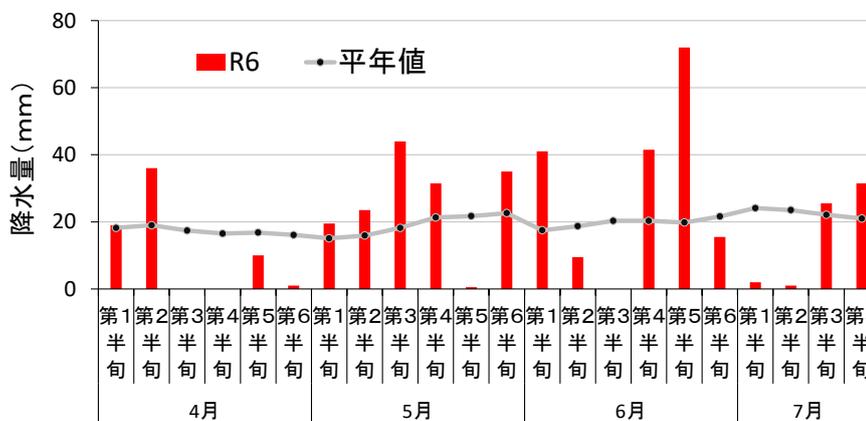
図2 帯緑籾と黄化籾の判別 (左)、帯緑籾率と成熟期前日数 (右)

参考 (気象データ：アメダス下館地点。平年値は 1991～2020 年の値。)

①日平均気温



②降水量



③日照時間

